公益財団法人　国家基本問題研究所
総合安全保障プロジェクト

中国軍事動向月報

２０２５年１１月

JINF
Japan Institute
for National Fundamentals

目　　次

1　全　般　・・・3

2　各軍等　・・・4

3　対台湾動向　・・・9

4　対日動向　・・・11

5　南シナ海動向　・・・17

6　軍事交流　・・・18

参考文献　・・・19

中国軍事動向月報：2025 年 11 月

２０２５．１２．５

国家基本問題研究所　研究員　中川真紀

1　全　般

11 月は実員実射検閲や各隊員の能力検定等の実施している報道が多く確認された。9～10 月の訓練最盛期を経て、その成果を確認する時期となっている。一部の部隊では既に年末検閲（原文：年終考核）が実施され、1 年の訓練の成果が確認された。

海軍においては 5 日に中国では初の電磁カタパルトを装備した空母「福建」が就役した。また、14 日には電磁カタパルトを有する 076 型強襲揚陸艦一番艦「四川」が初の海上試験を行った。

空軍では、宣伝映画の映像ではあるが、ステルス無人機「攻撃-11」と有人機の訓練状況が初めて公開された。

台湾周辺においては、遠海長航訓練が昨年 11 月以来、1 年振りに確認された。台湾東側からの爆撃を想定したストライクパッケージを組んだ訓練と思われ、年度の総合訓練としても位置付けられている可能性がある。

日本に対しては、7 日の高市総理の発言に対する非難を大々的に展開した。軍内では、軍高官に対する反腐敗取締りが継続しており、これから目を逸らし、同発言を軍の士気高揚・団結強化に利用しようとしている表れであろう。

一方、尖閣上番海警編隊は、台風や悪天候に対応し、早期に接続水域から避退した。党が主導する反日キャンペーンのさなか、尖閣上番の海警船に不測事態（例：尖閣周辺で海警船が転覆し、海上保安庁巡視船に救助される）が発生すれば中国国内からの批判を招きかねないことから、通常より慎重な行動を採った可能性がある。

南シナ海においては、毎月実施している定例パトロールで初めて「爆撃機編隊」という言葉を使用した。これまで爆撃機がパトロールしている状況は映像でも確認されているが、わざわざ強調することにより、爆撃も辞さない、とより強く牽制する姿勢を見せた。

2　各軍等

（1） 全　般

○　「中国人民解放軍予備役人員証」の導入[1]

来年３月１日より全軍で「中国人民解放軍予備役人員証」の発行・使用が開始予定。

人員証の証書番号は、体系的に付与される固有の識別番号であり、「中華人民共和国予備役兵法」施行後の予備役将校・下士官・兵士に発行される。

【コメント】

中国は 2023 年３月１日から「中華人民共和国予備役兵法」を施行し、予備役に関する法律整備を行った。今回の人員証の発行で将校・下士官・兵士の全ての階級において予備役人員に固有の識別番号を付与することにより、予備役の人員管理が効率的になり、戦時における迅速な招集等に寄与するものと思われる。

（2）陸軍

「陸軍基礎訓練大綱」に無人機操作が新科目として追加

11月24日付解放軍報は、「戦技競技会に第3の眼が出現」との記事において、陸軍某旅団における無人機訓練の状況を以下の様に紹介

（資料源：解放軍報20251123
http://www.81.cn/szb_223187/szbxq/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2025-11-23&paperNumber=02&articleid=967508）

○ 本年改訂された最新版「陸軍基礎訓練大綱」（以下、大綱）において、携帯式無人機操作が新訓練課目として追加
○ 某旅団では、無人機操作、レーシングドローン操作等、大綱に追加された4つの訓練課目を年度の戦技競技会の新種目として、伝統的な訓練課目への固執を捨てて追加
○ 当該旅団はの旅団集合訓練や大隊巡回指導訓練等を実施し、無人機技能向上を追求
○ 無人機旅団集合訓練の概要
  ◇ 各部隊から35名の将兵を選出
  ◇ 半年以上に渡り、1日10時間以上の訓練を継続
  ◇ 空中偵察・障害通過・爆弾投下等の課目を演練
○ 戦技競技会の結果を踏まえ、部隊における無人機操作訓練の方法や評価方法等を改善

○ 携帯式の小型無人機操作が本年から大綱に追加されていることから、訓練基準を統一し、全陸軍において中隊級の基礎となる戦闘部隊に偵察・攻撃可能な小型無人機の装備を推進している可能性
○ 熟練した操作には半年以上の訓練期間が必要。中隊級の部隊ではノウハウがないことから、旅団級の集合訓練を行い、中核要員が各部隊に戻り、普及訓練を実施するとなれば導入から戦力発揮までは1年は必要。それを見越して2027年の建軍百年奮闘目標に間に合うよう、無人機訓練を全部隊において展開している可能性

陸軍合成大隊が無人装備との新作戦形式を探求

11月13日のCCTV[軍事報道]は、「陸軍合成大隊が無人装備との新作戦形式を探求」との報道において、陸軍某旅団における無人機訓練の状況を紹介

（資料源：軍事報道20251113
https://tv.cctv.com/2025/11/13/VIDEr16IZgGV8WHIgcM5LFyv251113.shtml?spm=C52346.PiumOrlYLNUM.EOVXtwLj8YU7.14）

UGV先導による突撃

UGV先導による突撃

UGV先導による偵察or障害処理

UAV操作要員教育

UAV操作訓練

機関銃装備UAVによる市街地戦闘訓練

操作要員の教育や多種類のUGVを使用した試験・訓練等を繰り返し実施している状況が報道されており、部隊での実戦的な運用要領について検討が進められている可能性

（3）海軍

電磁カタパルトを有する076型強襲揚陸艦一番艦、初の海上試験

○ 11月14日、中国海軍の076型強襲揚陸艦一番艦「四川」が上海滬東中華造船所から初の海上試験の為に出港
○ 16日、「四川」は3日間の海上試験を終了し、造船所に帰港。動力・電力システムとの試験を行い、予期の成果を得たと報道
（資料源：解放軍報20251115，20251117）

○「四川」は満載排水量4万t以上、2024年12月進水。約11か月の艤装期間を経て、初海上試験
○ 075型（ﾕｰｼｪﾝ級強襲揚陸艦）との大きな相違は、電磁カタパルト×１装備、ﾂｲﾝｱｲﾗﾝﾄﾞ

海上試験に出港する「四川」（出典：央視新聞20251114）

終了して帰港する「四川」（出典：央視新聞20251116）

○ 電磁カタパルトにより、ヘリに加え固定翼機の発艦が可能。ﾂｲﾝｱｲﾗﾝﾄﾞで航行指揮と航空管制の機能を分離させており、大型の無人機を発艦させ統制する可能性
○ 排水量からユーシェン級と同等の1個大隊規模の水陸両用部隊及びヘリ部隊の搭載が可能であり、無人機による偵察・火力打撃と連携したヘリ・陸上部隊同時着上陸作戦を企図した装備の可能性
○ 既に就役しているユーシェン級4隻は進水から1年半～1年8か月で就役。電磁カタパルトの試験が順調ならば来年中に就役の可能性

海軍の無人機装備を使用した訓練

○ 11月20日、央視新聞は北部戦区海軍某海防工程大隊による無人装備を使用した爆発物捜索処理訓練状況について報道した
○ 軍港内で爆発物が設置されたとの想定の下、無人器材で捜索、爆発物の回収・処理を実施
（資料源：央視新聞20251120
https://ysxw.cctv.cn/article.html?toc_style_id=feeds_default&item_id=14732342451435372501&channelId=1119）

無人測量船による水中捜索

磁気探査無人機による捜索

無人潜航器が爆発物の信号捜索

無人機による爆発物の回収・輸送

水陸両用無人掘削車

無人装備で数百m外からレーザーで爆破処理

第1線部隊のみならず、港湾等の施設防護を任務とする部隊においても機雷や爆発物処理等危険作業に無人装備を導入

○ 空母福建の就役

11 月 5 日、中国南部戦区に位置する海南省三亜の海軍基地において、中国海軍 3 隻目の空母である「福建」が就役した。中国初の電磁カタパルト式空母であり、第 1 列島線（日本から台湾、フィリピンにいたるライン）を越えての作戦が可能であり、中国が目指す遠海防衛型海軍への大きな一歩となる。

（細部は国基研 HP：総合安全保障プロジェクト 20251202「空母福建の就役」参照）

（4）空軍

ステルス無人機の有人機との編隊飛行

11月11日、中国空軍は空軍創立76周年を記念した短編映画「夢遠」を発表。ステルス無人機「攻撃-11」（GJ-11、映像では「玄龍08」と呼称）の訓練状況を初めて公開

（資料源：微博・人民空軍20251111_https://weibo.com/6397754323/QdjxOrReP）

左右共：格納庫から離陸位置に移動するGJ-11

飛行中のGJ-11

J－20（手前）、J-16Dと編隊飛行するGJ-11

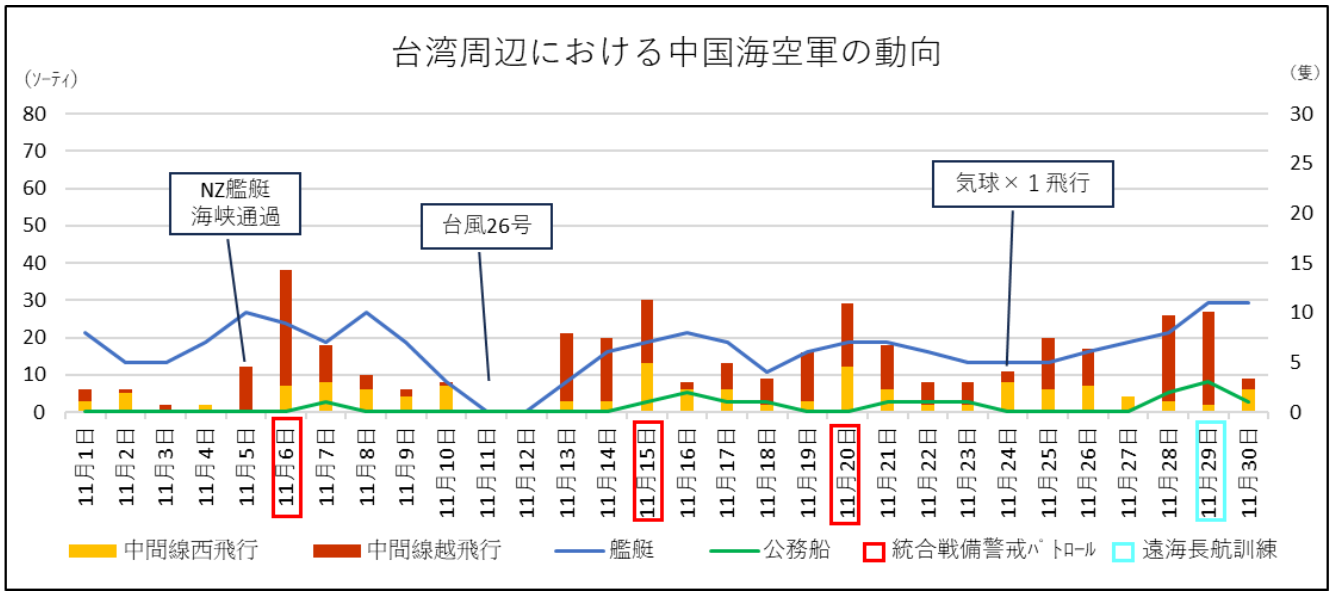
○ 宣伝用の映像であるが、部隊がステルス無人機と有人機が協同した飛行訓練を既に実施

○ 編隊飛行したJ-20はステルス戦闘機、J-16Dは電子戦機であり、ステルス無人機と共に作戦当初のSEAD（敵防空網制圧）任務実施を想定している可能性

3　対台湾動向

（1） 台湾周辺での軍の活動状況

○　中華民国国防部発表による台湾周辺における中国海空軍の動向



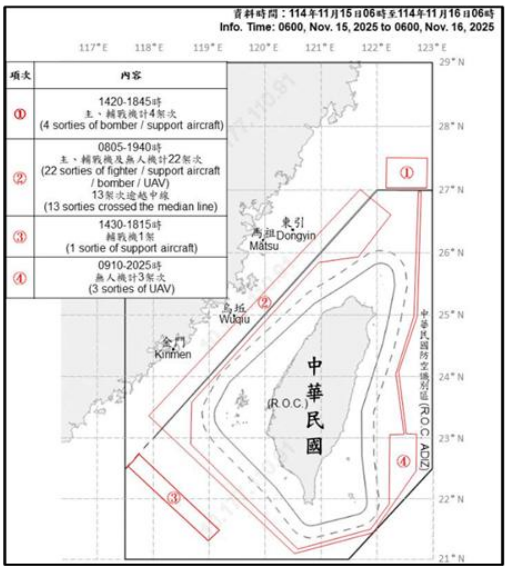
（資料源：中華民国国防部 HP を基に作成）

11 月は中国軍機延べソーティー402（内、中間線超えが延べ 266）、中国艦艇延べ 190 隻、公務船延べ 15 隻が確認。また、24 日に気球 1 基の飛行が確認された。

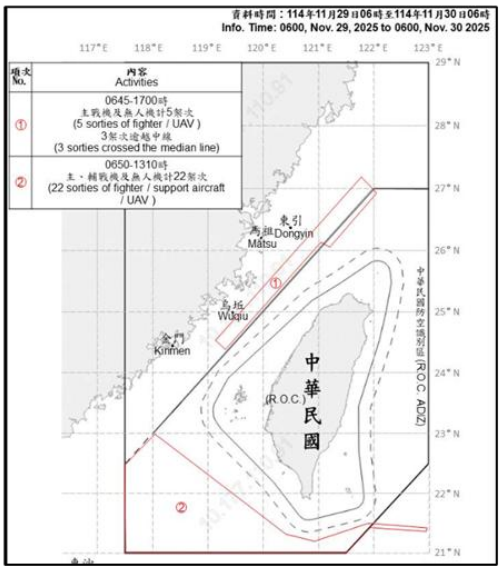
1 日における軍用機最大確認数は 38 ソーティー、最大中間線超え 31 ソーティー、海空統合戦備警戒パトロールは 3 回であった。29 日には J-16、H-6、KJ-500 等による遠海長航訓練が実施された。

ニュージーランドのコリンズ国防相が、補給艦「アオテアロア」が 5 日に南シナ海から台湾海峡を通過したと明らかにしたが、中国側からの公表はなかった。

11/15　統合戦備警戒パトロール



11/29　遠海長航訓練



（出典：左右共中華民国国防部）

【コメント】

遠海長航訓練とは、台湾東部空域まで爆撃機を含む軍用機が進出する訓練であり、台湾国防部が実施の確認を公表したのは昨年 11 月 3・4 日以来、1 年振り。台湾東側からの爆撃を想定したストライクパッケージを組んだ訓練と思われ、年度の総合訓練としても位置付けられている可能性がある。

気球が確認されたのは 3 月以来。昨年も 5～10 月は未確認で 11 月から飛行が活発化しており、本年も冬季間は確認数が増加する可能性がある。

（2） 金門周辺海域での動向

台湾海巡署によると 11 月 13 日に 1 回、20 日に 2 回[2]、28 日に 1 回[3]、計 4 回、中国海警 4 隻が金門周辺台湾制限水域への入域し、約 2 時間航行し出域した。

11 月 28 日、海警東海分局報道官は「11 月 28 日、福建海警は金門付近海域において法に基づく法執行パトロールを実施した」と公表[4]。

（3）東沙周辺海域での動向

台湾海巡署による公表は確認されなかった。

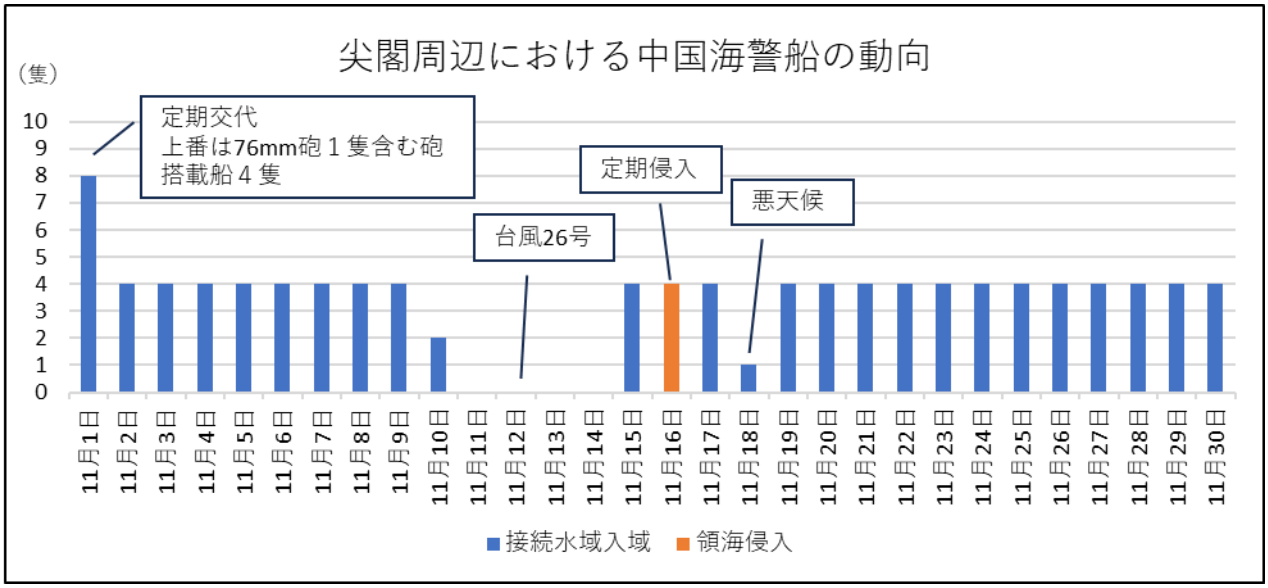
【コメント】

金門周辺制限海域への中国海警による進入は 10 月には確認されなかったが､11 月には再開した。10 月は悪天候や 4 中全会等の関係で実施しなかった可能性があったが、法執行パトロールの常態化を継続する姿勢を見せた。

4　対日動向

（１） 尖閣諸島周辺での活動状況

○　海上保安庁発表等による尖閣周辺における中国海警船の動向



（資料源：海上保安庁 HP、八重山日報を基に筆者が作成）

11 月も砲搭載船 4 隻による活動を実施した。定期侵入は 1 回であった。

台風 26 号の接近により、4 隻共が接続水域から出域した。台風が尖閣海域に接近したのは 12 日以降で 13 日には消滅したが、10 日より逐次出域し、復帰したのは 15 日であった。また、18 日の悪天候時にも ZHAOKAI 級の 1 隻を残し、避退した。

11 月上番しているのはいずれも 3000t 級の海警船であり、早期の避退となった。7 日の高市総理の発言に対し中国が反発を強めており、そのような中で尖閣上番の海警船に不測事態（例：尖閣周辺で海警船が転覆し、海上保安庁巡視船に救助される）が発生すれば中国国内からの批判を招きかねないことから、通常より慎重な行動を採った可能性がある。

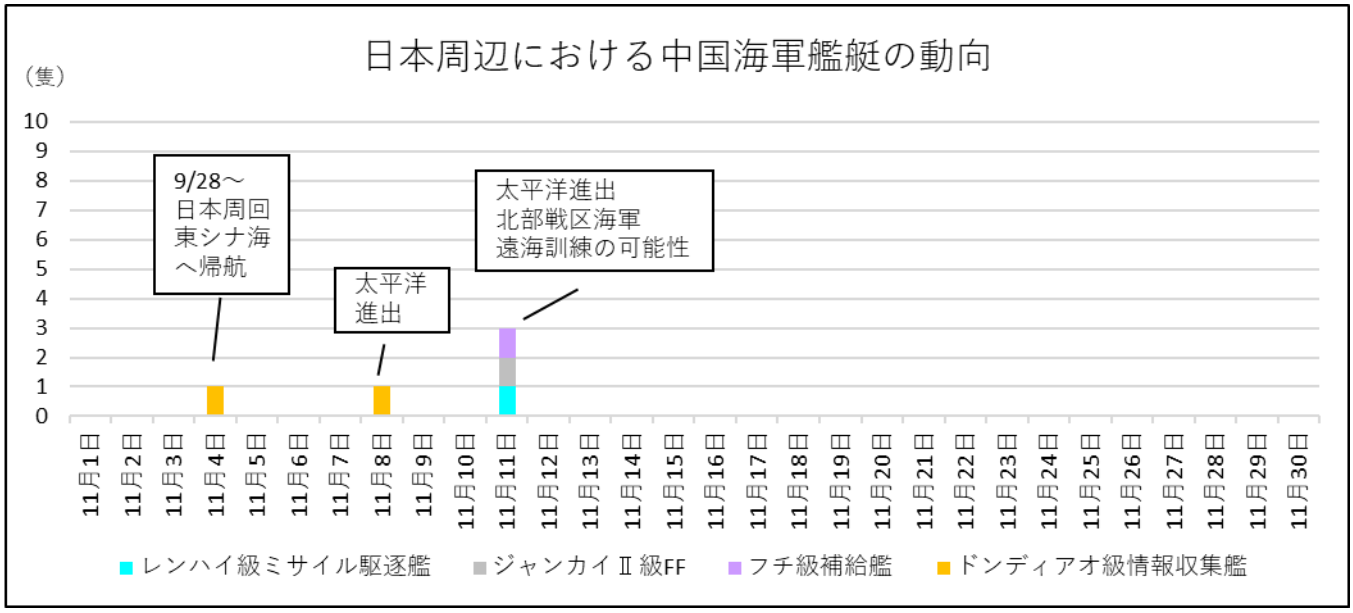
2025年台風26号（フォンウォン・FUNG-WONG）

進路図

（出典：ウェザーニュース）

（２）日本周辺での軍の活動状況

○　防衛省統合幕僚監部発表による日本周辺における中国海軍の動向

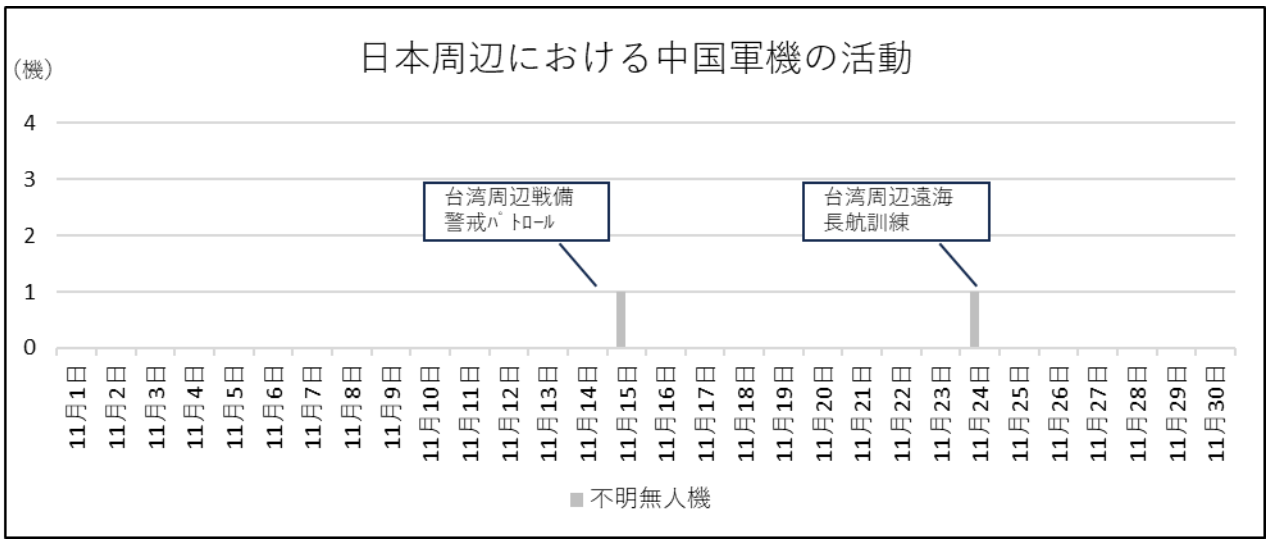


（資料源：防衛省統合幕僚監部 HP を基に筆者が作成）

延べ 5 隻の活動が確認された。

太平洋に進出した情報収集艦及びフチ級補給艦と共に行動する艦艇群はいずれも北部戦区海軍所属であり、太平洋での訓練や情報収集を実施した可能性がある。

○　防衛省統合幕僚監部発表による日本周辺における中国軍機の動向



（資料源：防衛省統合幕僚監部 HP を基に筆者が作成）

延べ 2 機の活動が確認された。

いずれも台湾周辺での無人機の活動に関連したものであった。

（３）対日認知戦（解放軍報、国防部の発表からの抜粋のみ）

○　日比防衛関係強化は地域情勢を攪乱[5]　盧昊・中国社会科学院日本研究所総合戦略研究室主任

日比部隊間協力円滑化協定（RAA）が発効し、更に物品役務相互提供協定（ACSA）の合意に至ったが、同協定署名後、日比は準同盟関係となる。比は既に日本が ASEAN に影響力を及ぼし、南シナ海へ介入し、対中牽制をする重要な手先となっている。

○　日本が大規模演習で広域統合作戦能力を検証[6]　解放軍報　20251106

10 月下旬、自衛隊が統合実動演習を実施し、米豪軍も一部に参加した。これは今年 3 月に統合作戦司令部設立以来、初の大規模実動演習であり、日本が専守防衛を越え、戦える国と邁進する危険な動きである。

今次演習では、各自衛隊の地域を越えた全域での協同、統合作戦司令部の士気の効率化、日米指揮システムの初連接、多くの民間施設の活用等が注目され、安保三文書の改訂等の政策と相まって益々地域の安保情勢の不確定要素となっている。

○　日本の防衛政策の新たな動きが国際社会の警戒感を高める[7]　盧昊・中国社会科学院日本研究所総合戦略研究室主任　解放軍報 20251113

高市新首相の所信表明演説等における防衛装備品移転３原則の修正や防衛費 GDP２％の前倒し実施等の表明や、原潜装備への取組等を見るに日本政府の右翼化は明らかであり、非常に危険である。国際社会はこれに大いに注視している。

○　高市首相の存立危機事態に関する発言について[8]　国防部定例記者会見 20251114

日本の指導者による台湾に関する誤った発言は、中国内政への露骨な干渉であり、「一つの中国」原則、中日四つの政治文書の精神、そして国際関係の基本規範に対する重大な違反である。これは戦後国際秩序への挑戦であり、「台湾独立」勢力に重大な誤ったシグナルを送るものであり、その性質と影響は極めて甚大で、極めて無責任かつ危険である。

台湾問題は純粋に中国の内政であり、いかなる外部からの干渉も許さない。今年は、中国人民抗日戦争勝利 80 周年、そして台湾光復（台湾返還）80 周年にあたる。もし日本が歴史の教訓から深く学ばず、あえてリスクを冒し、台湾海峡情勢に武力介入しようとするならば、必ずや中国人民解放軍の鉄壁なる守りに阻止され、頭から血を流し、悲惨な代償を払うことになるだろう。

○　日本が敢えて台湾海峡情勢に武力介入しようとすれば、必ず痛烈な反撃に直面する[9]　鈞声　解放軍報 20251115

高市首相が台湾有事は日本が集団自衛権を行使しうる存立危機事態になりうると公然と宣言したことは、台湾海峡情勢に武力介入できると暗示したものだ。

この露骨な台湾に関する挑発的発言は、一つの中国の原則・中日４つの政治文書・国際関係の基本準則への重大は違反であり、中国内政への重大な干渉であり、中国の核心的利益に挑戦し、中国の主権を侵犯し、国際正義を踏みににじり、戦後国際秩序に公然と挑戦し、中日関係を著しく破壊するものである。中国政府・人民・軍はこれに大いに憤慨し、断固反対する。

○　台湾海峡への武力介入は、日本を後戻りできない道へと導くだけ[10]
徐永智・中国現代国際関係研究院　解放軍報 20251116

高市首相は先日、台湾についての露骨な挑発発言を行い、撤回を拒否した。現職の日本首相が台湾海峡への武力介入の可能性を明確にしたのは今回が初めてであり、日本の近年の軍事力強化が中国に対するものだと示すとともに、日本政府が平和憲法に違反し、軍事手段による他国への内政干渉を企てていることを露呈するものだ。

日本当局による台湾海峡への介入の試みは、国際正義の露骨な蹂躙であり、戦後国際秩序に対する公然たる挑発であるだけでなく、中日関係を著しく破壊するものだ。歴史の教訓は未だ生々しい。もし日本が歴史から深く学ばず、あえてそのようなリスクを冒すならば、中国は必ずや強烈な打撃を与えるだろう。一度火遊びを始めれば、どこまで延焼するかは自分では決められないのだ。

○　高市の台湾に関する暴言は国際法を露骨に踏みにじるものであり、恥ずべき失敗に終わるであろう[11]　謝若初・国際関係学院　解放軍報 20251120

高市首相の挑発的な暴言は台湾情勢に武力介入する可能性を暗示している。これは、国際法及び国際関係の基本的規範に著しく違反し、戦後の国際秩序と中日関係の政治的基礎を著しく破壊し、中国人民の感情を深く傷つけた。極めて誤りで、極めて危険で、極めて挑発的である。日本は直ちに誤った発言を撤回し、自らの行動を深く反省し、方針を転換し、中国人民に明確な説明をしなければならない。

○　所謂「存立危機」は軍国主義の根強い毒を秘めている[12]　鈞声　解放軍報 20251121

高市首相の先日の発言は、日本の軍国主義の毒が未だ消滅していないことを完全に暴露した。日本が自らの意見を押し通し危険を承知で台湾海峡情勢に武力介入するならば、必ずや中国人民解放軍の痛烈な反撃にあい、80 年前よりもさらに徹底的な敗北が待つだけである。

○　台湾を利用して問題を起こすのは、日本に問題を起こすのと同じ[13]　梁雲 汪深偉
解放軍報 20251122

連日、日本のメディアや各界の有識者らが、高市早苗の台湾に関する挑発的な暴言に対して警告や批判を表明している。台湾に関する高市の誤った主張は、日本の将来と地域の平和を交渉材料として利用し、日本国民を中国分裂という戦いに追い込み、軍国主義の誤りを繰り返すという危険なシグナルを送っている。

○　高市の台湾に関する誤った主張は公然と国際法を踏みにじり、必ずや因果応報となる[14]
張振業　解放軍報 20251124

高市早苗の発言は日本政府の真摯な約束に著しく反し、国際法における「禁反言」の基本原則に反するものである。即ち、日本は日中共同声明を含む 4 つの政治文書において、「中華人民共和国政府を中国の唯一の合法政府として承認する」と繰り返し表明しており、これは国際法上、明確な法的効力を有している。

○　軍国主義の毒を拭い去れないことこそが「日本有事」[15]　宝川　解放軍報 20251125

歴史と現実は、軍国主義の根深い毒こそが「日本有事」であることを正に証明している。

中国侵略を開始し、3,500 万人以上の中国軍民の犠牲者を出したことから、真珠湾攻撃による太平洋戦争に至るまで、日本の軍国主義は世界の人々に甚大な被害をもたらしただけでなく、自国を戦争の泥沼に引きずり込み、唯一の被爆国とさせた。

○　日本が軍国意主義侵略という古い道を繰り返すことを決して許さない [16]

鈞声　解放軍報 20251127

日本の軍国主義の野心が制御不能に陥れば、必然的にアジアの隣国にとって深刻な脅威となることは、歴史が証明してきた通りである。高市の台湾に関する発言は、日本の軍国主義が「生命線」と「存亡の危機」を口実に侵略戦争を開始した論理そのものと言える。しかし、今日の世界は、日本の右翼勢力が歴史の時計を巻き戻すことも、日本の軍国主義が再び台頭することも決して許さない。

○　国防部定例記者会見日本関連質問への回答 [17]　20251127

◇　与那国島へのミサイル配備について

台湾問題は完全に中国の内政問題であり、日本には全く関係がない。解放軍はいかなる侵略者も撃退できる強力な力と確実な手段を保有している。日本が敢えて一線を越え、自ら災いを招けば、大きな代償を払うことになるだろう。

◇　11 月 23 日～12 月 7 日の渤海海峡・黄海北部の軍事任務は日本への警告か。日本が発言を撤回しなければ、軍は更なる圧力をかけるのか

中日関係の現状の根本原因は、高市早苗首相による台湾に関する誤った公言である。1945 年の敗戦以来、日本の指導者が初めて公式の場で「台湾有事は日本有事」と吹聴し集団的自衛権の行使に結びつけ、初めて台湾問題への武力介入の野心を露わにし、初めて中国に対する武力威嚇を行い、公然と中国の核心的利益に挑戦したものであり、極めて誤り・危険・悪質だ。国家の主権、統一、領土保全の擁護は中国軍の神聖な責務であり、いかなる侵略行為に対しても、躊躇なく反撃する。

◇　米国へのパトリオットミサイル輸出や安保三文書の改訂について

このような動きは地域の平和と安定への顕著な脅威だ。日本の軍国主義の亡霊が人類に再び甚大な被害を与えることは決して許さない。日本に対し、歴史の罪を真摯に反省し、憲法改正と軍備拡張を直ちに停止するよう、強く警告する。

◇　自衛隊の内部から福建が台湾海峡で軍事行動を採れば、日米は撃沈する能力を有するとの声があるが

ばかげた話、身の程知らず、だ。

◇　近年、日本が台湾で親日派育成に累計 131 億円超を費やしているとの調査あるが

日本は台湾植民地時代に、大規模な「皇民化運動」を展開し、現在、より秘密裏に巨額の金を使い、台湾民衆の思想・文化に浸透し、侵略犯罪を隠蔽し、台湾の若い世代から国家と民族のアイデンティティを奪おうとしている。台湾の同胞は強く警戒せねばならない。

○　日本のはぐらかしは通用しない[18]　従戎　解放軍報 20251130

連日、高市首相による台湾に関する誤った発言に対し、中国は厳しい声明と警告を相次いで発表し、国内外の有識者は非難と批判を表明している。各方面からの圧力を受け、日本は口先では「立場に変化はない」と述べるものの、具体的な内容については曖昧なままである。「対話を望む」「意思疎通を図る」という姿勢は示しつつも、誤った発言の撤回については言及していない。真実と国際正義を前に、はぐらかそうとする試みは、極めて稚拙であり、日本当局の一線を越えた挑発、戦後国際秩序への挑戦、そして軍国主義の復活という野望を露呈するだけであり、中国と国際社会の断固たる抵抗に直面することとなるだろう。

【コメント】

7 日の高市総理の発言を受け、14 日の国防部定例記者会見以降、発言への非難キャンペーンを一気に展開した。

中国外交部の定例記者会見では関連質問が 10 日に初めて出されたが、11・12 日には取り上げられず、13 日から関連質問が連日なされた。解放軍報の 13 日付けの記事「日本の防衛政策の新たな動きが国際社会の警戒感を高める」では 7 日の発言に触れていないことから、13 日までに党の高市総理発言に関する対日方針が決定し、それ以降、外交部同様に軍もその方針に従い、14 日から日本への非難を展開したと思われる。

執筆者の中の「鈞声」とは「軍の声」を意味しており、解放軍報のいわゆる社説のペンネームであり、軍の公式見解と捉えても良いものだ。15 日から 27 日にかけて 3 回も記事を掲載しており、軍が全面的に非難キャンペーンに取り組んでいる状況がわかる。

これは、高市総理発言を軍の士気高揚・団結強化に利用しようとしている表れであろう。先月 10 月には四中全会で元中央軍事委員会副主席を含む軍高官 9 名の党籍剥奪処分が公表された。更に今でも、党や軍の重要行事に参列していない司令官級の高官も多数存在し、軍内での汚職取締りは継続している。四中全会以降、軍内では反腐敗教育が展開されているが、一般隊員にとっては自分の指揮官が起こした不祥事であり、教育をする方も受ける方もやればやるほど士気が低下するものとも言えた。

そこに台湾有事に関する対日非難という、絶好の機会が訪れた。これを軍内に大々的に展開することにより、「日本が台湾統一に武力介入する」というナラティブを作り出し、これに対抗するために軍は一致団結し、戦わねばならないと教育することは、実施する側も躊躇はなく、隊員にとっても受け入れやすい。

党中央の方針転換があるまでは、軍は同発言を大いに利用して軍の士気高揚を図るものと思われる。

5　南シナ海動向

○　南シナ海海域パトロール[19]

11 月 16 日、南部戦区報道官は、「11 月 14 日、南部戦区は爆撃機編隊を編成し、南シナ海で定例パトロールを実施した。比は頻繁に域外勢力を引き込み、いわゆる『共同パトロール』を実施し、地域の平和と安定を破壊している。」と公表。

○　スカボロー礁

◇　11 月 29 日、中国海警局は「29 日、海警はスカボロー礁領海と周辺区域において法執行パトロールを実施した」と公表[20]。

◇　11 月 29 日、南部戦区は「29 日、南部戦区は海空戦力により，スカボロー礁領海領空及び周辺区域の戦備警戒パトロールを実施した」と公表[21]。

【コメント】

11 月 14 日、日米比 3 か国による海上協同活動（Maritime Cooperative Activity）として、海上自衛隊は、米海軍、フィリピン海軍及びフィリピン沿岸警備隊と南シナ海で共同訓練を実施。海自からは護衛艦「あけぼの」、米海軍からは空母「ニミッツ」と駆逐艦 3 隻、比海軍からはフリゲート艦 2 隻、比沿岸警備隊からは巡視船 2 隻が参加した。

また、11 月 29 日には、日比 2 か国による海上協同活動として、海上自衛隊は比海空軍と南シナ海で共同訓練を実施。海自からは護衛艦「はるさめ」、比海軍からはフリゲート艦 1 隻、比空軍からＣ－２０８が参加した。

これらの比と日米の協力に対し、中国は強く反発しており、同時期に南部戦区海空軍及び海警で対応している。特に 14 日に実施した定例パトロールでは初めて「爆撃機編隊」という言葉を使用した。これまで爆撃機が参加している状況は映像でも確認されているが、わざわざ強調することにより、爆撃も辞さない、とより強く牽制する姿勢を見せたと言える。

6　軍事交流

（1）軍事交流

○　中・セルビア国防相会談

11 月 5 日、董軍国防相は訪中したセルビアのガシッチ国防相と会談。両国は高官交流・人材育成・共同訓練・軍事医学等の各分野での協力継続等、実務協力の深化や地域の安全保障への貢献に合意した[22]。

またガシッチ国防相は 6 日、張又侠中央軍委副主席とも会見した[23]。

○　張又侠中央軍委副主席の露訪問[24]

11 月 20 日、張又侠・中央軍委副主席は露を訪問し、ベロウソフ露国防相と会談した。双方は両国両軍関係、国際情勢、地域情勢、共通の関心事項について踏み込んだ意見交換を行い、ハイレベル交流の強化と実務協力の深化で合意した。

○　米中海上軍事安全保障協議メカニズムの作業部会会議及び年次会合開催[25]

11 月 18～20 日、米中両軍はハワイで、2025 年米中海上軍事安全保障協議メカニズム第 2 回作業部会会議および年次会議を開催した。

中国海軍の公表した内容は以下の通り

「両国首脳が達成した重要な共通認識に従い、平等と尊重の原則に基づき、率直かつ建設的な意見交換を行った。主に中米間の海空安全保障の現状について意見交換を行い、両軍の海空域における遭遇の典型的な事例について議論し、「中米海空安全遭遇行動規範」の年次実施状況を評価し、海上軍事安全保障問題の改善策を議論し、2026 年作業部会会議の議題について意見交換を行った。

双方は、同会議が、両軍の海空第 1 線部隊がよりプロフェッショナルかつ安全に行動するのに役立ち、誤解や誤判断を避け、リスクや危機を管理する上で有益であるとの点で一致した。同時に、中国は航行や飛行の自由の名の下に中国の主権と安全を脅かすいかなる行為、中国に対するいかなる侵害、挑発、近接偵察、嫌がらせにも断固として反対する。中国は引き続き、法に基づき、領土主権と海洋権益を断固として守り、地域の平和、安定、繁栄を維持していく。」

（2）共同訓練

○　中越トンキン湾合同パトロール[26]

11 月 19～20 日、中越両海軍艦艇編隊は第 39 回トンキン湾合同パトロールを実施。双方それぞれ 2 隻のコルベット艦を派遣、330 カイリ超のパトロールを行った。パトロール間、交代で指揮を執り、情報交換や漁船への救助等の訓練を実施した。

○　中国・パキスタン、共同対テロ演習「勇士-9」[27]

11 月下旬から 12 月中旬にかけてパキスタンにおいて、中国人民解放軍西部戦区とパキスタン陸軍は、「共同対テロ掃討・打撃作戦」をテーマとする共同対テロ演習「勇士-9」を実施。

【参考文献】

1　国防部網 20251126
http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16423865.html
2　海洋委員会海巡署 20251120
https://www.cga.gov.tw/GipOpen/wSite/ct?xItem=166447&ctNode=650&mp=999
3　海洋員会海巡署 20251128
https://www.cga.gov.tw/GipOpen/wSite/ct?xItem=166493&ctNode=650&mp=999
4　中国海警局 20251128
https://www.ccg.gov.cn/hjyw/202511/t20251128_2872.html
5　解放軍報　20251104
http://www.81.cn/szb_223187/szbxq/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2025-11-04&paperNumber=02&articleid=966213
6　解放軍報　20251106
http://www.81.cn/szb_223187/szbxq/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2025-11-06&paperNumber=11&articleid=966375
7　解放軍報 20251113
https://rmt-static-publish.81.cn/file/20251113/d3f6b58344e2010b2c73d638d774bd9c.pdf
8 国防部網 20251114
http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16421931.html
9 解放軍報 20251115
http://www.81.cn/szb_223187/szbxq/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2025-11-15&paperNumber=01&articleid=967015
10　解放軍報 20251116
https://rmt-static-publish.81.cn/file/20251116/43d86a80228a524080dedb25ff289765.pdf
11　解放軍報 20251120
http://www.81.cn/szb_223187/szbxq/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2025-11-20&paperNumber=04&articleid=967313
12　解放軍報 20251121
https://rmt-static-publish.81.cn/file/20251121/d61fdc9d712e8ed7d32f5a69b8f4597c.pdf
13　解放軍報 20251122
https://rmt-static-publish.81.cn/file/20251122/3d19618814bd2c84ba3c01f90eb361fa.pdf
14　解放軍報 20251124
https://rmt-static-publish.81.cn/file/20251124/e358b8882b502af4d7734be817fcb0ef.pdf
15　解放軍報 20251125
https://rmt-static-publish.81.cn/file/20251125/6c7753e9f6e60461723bfc7cde9994a5.pdf
16 解放軍報 20251127
http://www.81.cn/yw_208727/16423931.html
17　国防部網 20251127

http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16424101.html
18　解放軍報 20251130
https://rmt-static-publish.81.cn/file/20251130/33c4bc64def5768492cbb5b0ce05d602.pdf
19　中国軍網 20251116
http://www.81.cn/yw_208727/16422187.html
20　中国海警局 20251129
https://www.ccg.gov.cn/wqzf/202511/t20251129_2873.html
21　南部戦区微信 20251129
https://weibo.com/u/7468777622?lpage=profileRecom
22　中国軍網 20251106
http://www.81.cn/szb_223187/szbxq/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2025-11-06&paperNumber=01&articleid=966354
23　中国軍網 20251107
http://www.81.cn/szb_223187/szbxq/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2025-11-07&paperNumber=01&articleid=966458
24 国防部網 20251120
http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16422977.html
25　微信・人民海軍 20251122
https://mp.weixin.qq.com/s/Q-tcW8eATp8N4rkB0CWS8Q
26　中国軍網 20251120
http://www.81.cn/yw_208727/16423054.html
27　国防部網 20251130
http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16424540.html

中国軍事動向月報　２０２５年１１月

２０２５年１２月８日発行

公益財団法人国家基本問題研究所
〒102-0093
東京都千代田区平河町２－６－１
平河町ビル５階

本書の無断転載、複写、複製を禁じます。